

亀岡市都市計画公園及び京都スタジアム(仮称)に係る環境保全専門家会議
(第27回)の開催概要について

1 開催日時 平成28年3月30日(水) 午後1時30分から4時45分

2 開催場所 メルパルク京都 5階 会議室A

3 出席者

【委員】

村上委員(座長)、岩田委員、竹門委員、辻村委員、平井委員、堀野委員、
松井委員、光田委員

【オブザーバー】

江戸オブザーバー、前菌オブザーバー、岡崎オブザーバー、遠藤オブザーバー

【要綱第5条関係人】

渡辺亀岡市アユモドキ緊急調査検討委員会委員

阿部亀岡市アユモドキ緊急調査検討委員会委員

【事務局】

京都府：文化スポーツ部森下部長、中島理事、山本担当課長 他

亀岡市：桂川市長、勝見副市長、桂政策推進室長、中川環境市民部長 他

3 議 事

- (1) 第25回環境保全専門家会議の開催概要(案)について
- (2) アユモドキの仔稚魚期の生息場としての水路ネットワーク評価について
- (3) 亀岡市都市計画公園及び京都スタジアム(仮称)の整備計画の策定にあたり考慮すべき基本方針Ver.2(素案)について
- (4) 平成28年度生息環境再生整備実験について

4 意見等

- (1) アユモドキの仔稚魚期の生息場としての水路ネットワーク評価について
 - ・ アユモドキの餌資源量に直接結びつくものではないが、水路を流下するプランクトンの一部の種は、一定の距離で半減することが分かった。この距離以内の間隔で水田からの排水が供給できれば、水路内のプランクトンが流下によって減衰することなく供給できる指標となるのではないか。
 - ・ 水路を流下するプランクトンは、魚類の捕食や沈降によって減衰することが考えられる。調査の結果は、様々なプロセスを経て傾向がでているものと考えられる。
 - ・ アユモドキは、プランクトンの全般を食べているのではなく、一定の傾向が認められる。水路の表層を流れているものではなく、ケンミジンコ類など底生性プランクトンや、水生植物に付着するケブカミジンコやシカクミジンコなどをよく食べている。

- ・ 底生動物においては、カゲロウ、トビケラが重要な種群であることが見えてきた。
- ・ アユモドキが餌として選択している底生動物が水路のどのような環境に多かったか、水路の物理環境との関係について分析や考察を行えば、水路の改善対策に役立つ。
- ・ プランクトンの分析においては、水稻の栽培歴や農薬との関係も調査すべきである。
- ・ アユモドキの稚魚中期の餌の情報がなく、保全のための水路をデザインするにあたって調査が必要かどうかワーキングで調査計画を立てる必要がある。

(2) 亀岡市都市計画公園及び京都スタジアム(仮称)の整備計画の策定にあたり考慮すべき基本方針 Ver. 2 (素案) について

- ・ 全体の構成を検討するにあたって、1章にアユモドキ以外の希少種について記載する必要がある。

(3) 平成28年度生息環境再生整備実験について

- ・ 繁殖地拡大のための生息環境再生の効果を図る新設実験地について、準備段階に入るが、何か意見があれば事務局に提出していただき、ワーキングで協議する。

亀岡市都市計画公園及び京都スタジアム（仮称）に係る環境保全専門家会議（第28回緊急特別）の開催概要について

1 開催日時 平成28年4月26日（火） 午後6時から7時30分

2 開催場所 メルパルク京都 4階 研修室5

3 出席者

【委員】

村上委員(座長)、岩田委員、竹林委員、竹門委員、辻村委員、松井委員

【オブザーバー】

江戸オブザーバー、前菌オブザーバー、岡崎オブザーバー

釜オブザーバー

【要綱第5条関係人】

渡辺亀岡市アユモドキ緊急調査検討委員会委員

阿部亀岡市アユモドキ緊急調査検討委員会委員

【事務局】

京都府：文化スポーツ部森下部長、稲垣副部長、中島理事、山本課長

亀岡市：石野副市長、桂まちづくり推進部長、竹村まちづくり推進部事業担当部長、塩尻環境市民部長

4 議 事

(1) 「座長提言（案）」について

5 意見等

(1) 「座長提言（案）」について

- ・ 環境保全専門家会議設置から3年が経過する現時点において、座長としてアユモドキシの生息環境の保全と地域の保全活動の維持・発展につながるスタジアムの整備とを両立させることを目的に検討してきたが、計画地に隣接する亀岡駅北土地区画整理事業地を建設地とすることが望ましいと考え座長提言（案）を作成した。
- ・ アユモドキシのみに対しての記述ではなく、他の希少種保全の関係もあるので、「アユモドキシ等への悪影響を回避する」など、必要に応じてアユモドキシの後に「等」を加えることとする。
- ・ <スタジアム建設位置>の記述のところで「これによりアユモドキシが生息する曾我谷川流域ではなくなり、地下水保全等を行えばアユモドキシの生息環境への影響は軽微と考えられ」において、「ではなくなり」は「への直接的影響は回避され」に「軽微と」は「軽微となると」に修正する。

- ・ 提言の細部の修正は座長に一任して頂くこととし、了解を得られたので、速やかに京都府知事と亀岡市長に提出することとする。

亀岡市都市計画公園及び京都スタジアム（仮称）に係る環境保全専門家会議
（第29回）の開催結果について

※現地調査

- 1 開催日時 平成28年6月5日（日） 午前8時から10時30分
- 2 開催場所 京都亀岡保津川公園及び周辺
- 3 出席者
【委員】
村上委員（座長）、岩田委員、辻村委員
【オブザーバー】
釜オブザーバー
- 4 内 容
○農業用取水堰の起立に伴うアユモドキ救出状況の調査
○アユモドキの生息環境再生整備実験の調査

亀岡市都市計画公園及び京都スタジアム（仮称）に係る環境保全専門家会議
（第30回）の開催概要について

1 開催日時 平成28年6月22日（水） 午後6時から8時30分

2 開催場所 メルパルク京都 5階 会議室B

3 出席者

【委員】

村上委員(座長)、岩田委員、竹林委員、竹門委員、辻村委員、平井委員、
堀野委員、松井委員、光田委員

【オブザーバー】

前菌オブザーバー、岡崎オブザーバー、鑑オブザーバー

【要綱第5条関係人】

渡辺亀岡市アユモドキ緊急調査検討委員会委員

阿部亀岡市アユモドキ緊急調査検討委員会委員

【事務局】

京都府：文化スポーツ部森下部長、稲垣副部長、中島理事、山本課長 他

亀岡市：石野副市長、桂まちづくり推進部長、竹村まちづくり推進部事業担当
部長、塩尻環境市民部長 他

4 報告

(1) 平成28年度ラバーダム起立に伴う救出活動及び産卵調査の状況報告について

5 議事

(1) 第26回環境保全専門家会議の開催概要（案）について

(2) 亀岡市都市計画公園及び京都スタジアム（仮称）の整備計画の策定にあたり考
慮すべき基本方針について（素案）Ver. 2（案）について

6 意見等

(1) 平成28年度ラバーダム起立に伴う救出活動及び産卵調査の状況報告について

- ・ 6月5日に土地改良区によりラバーダムが起立された。濁水した下流に残されたアユモドキ39尾を救出し、環境省近畿地方環境事務所が実施する生息域外保全事業のファウンダーを除いて29尾が、ダム上流に放流された。
- ・ 共生ゾーンに整備した繁殖実験地では、7日の朝までにアユモドキの産卵に関係した行動が、複数回観察された。
- ・ 今年の救出個体は、昨年と比べて成熟した親魚が多く、良い結果であった。
- ・ 今年はダム起立直後にアユモドキが繁殖実験地に入る行動が見られたが、昨年に比べてタモロコやドジョウなどの進入する量が少なかった。周辺の田植え

が、ダム起立時に行われていなかったため水環境が異なっていたことも、その要因と考えられる。

- ・ ダム起立後の降雨時には、土地改良区が仔魚の流出などの影響を考慮して、適切なダム操作を行っていただいた。アユモドキの繁殖にとって、非常に重要な措置であり、今後とも配慮願いたい。
- ・ ダム起立後の産卵期に周辺で工事が行われていた。アユモドキへの刺激を避けるため起立からの3日間程度は、工事を中断するなどの協力を検討されたい。

(2) 亀岡市都市計画公園及び京都スタジアム（仮称）の整備計画の策定にあたり考慮すべき基本方針について（素案）Ver. 2（案）について

- ・ 稚魚期のアユモドキの餌生物の選択性について、トビケラ目については、「選択的に石礫底から捕食している可能性がある」に修正する。
- ・ 今後の方針として、現在の繁殖場がある曾我谷川以外の別の河川で新たな繁殖場所を創る必要があることを、どこかに記述することを検討してはどうか。
- ・ 「国による保全対策」の項で、近畿地方環境事務所が曾我谷川以外の河川で新たな繁殖地創出調査などの取組をされていることを記載することとする。
- ・ 「保全対象種の候補として71種が選定された。」ことについて、71種の分類群別の種数を書いておいた方がよい。
- ・ 国への要望についての項目は、要望ではなく連携の強化等といった表現にした方がよい。また、ラバーダム改修等で年次計画が記載されているが、関係者と未調整のものではなく、具体的に調整されている内容を記載すべきであり、今後の方向性を示すのであれば、検討するといった表現にした方がよい。
- ・ 本日の意見については、ワーキングで検討した上で基本方針 Ver. 2（案）に反映し、再度、専門家会議で議論することとする。